

集まって住もう ～田んぼつなぎ人つなぎ～

15TH020 酒井 優衣 15TH063 山坂 友希栄



01. 社会背景

近年ではプライバシーを優先する考え方方が浸透し、プライバシーを守るために閉鎖的な暮らしが増えている。さすがに外部空間との繋がりが薄くなり、外に出る機会も少なくなっている。プライバシーが尊重されるとともに地域のコミュニティは希薄化している。一方で、災害の多発等によりコミュニティの必要性が出てきている。

02. 問題意識

地域住民のコミュニティ活動の場の減少に加え、車社会による生活圏の拡大や通勤圏の拡大もあり、居住人口が減り、近所住民との関わりが減少しているとさえられる。また、規模が似ている住宅が集まると、居住者の属性が類似し、住宅地の特性と共に住宅地内の高齢化が進み、空き家と一緒に発生する可能性がある。

03. 設計趣旨

田んぼと鎮守の森を中心として地域内の関わりを生む「仕掛け」をつくりながら、コミュニティのよりどころとなる集合住宅と賃貸近接住宅を設計する。住宅のプランは画一的ではなく、多様な世代が暮らし、地域との関わりを形成できる場を設ける。

04. 敷地

◇福岡県糟屋郡須恵町椿木若八幡宮周辺

須恵町は、博多駅から車やJRで 30 分圏内と利便性がよく、また若杉山や岳城山がみられ自然にも恵まれた地域である。地形分析により約 100 年前から対象敷地周辺の地形は変化が少ないと考えられる。



◇若八幡宮

室内に現存する石燈籠から元文 5 年 (1741) 以前から古がちとされる。現在の若八幡宮の鎮守の森は、本来甲植木区の地蔵藏である。毎年 7 月 23 日、子供たちが香、花、菓子、果実をお地蔵様に供えて祀る祭りで 100 年以上続いている。

◇お地蔵様まつり

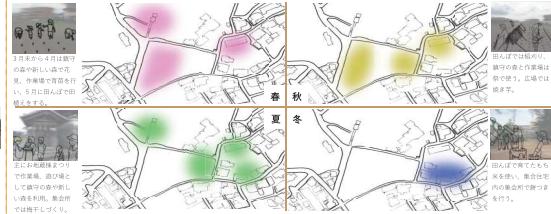
お地蔵様まつりとは、甲植木区の地蔵藏である。毎年 7 月 23 日、子供たちが香、花、菓子、果実をお地蔵様に供えて祀る祭りで 100 年以上続いている。

05. プログラム

◇照葉樹林

古来日本の古里に点在する鎮守の森を形成している植物は大半が照葉樹だった。植物生態学者の宮脇昭氏によると、鎮守の森は自然に倒れた木も枯木の土壤生物群によって分解される無駄のない生態系システムができている。敷地内に新しくつくる森は照葉樹を用いて親しみやすい森とする。

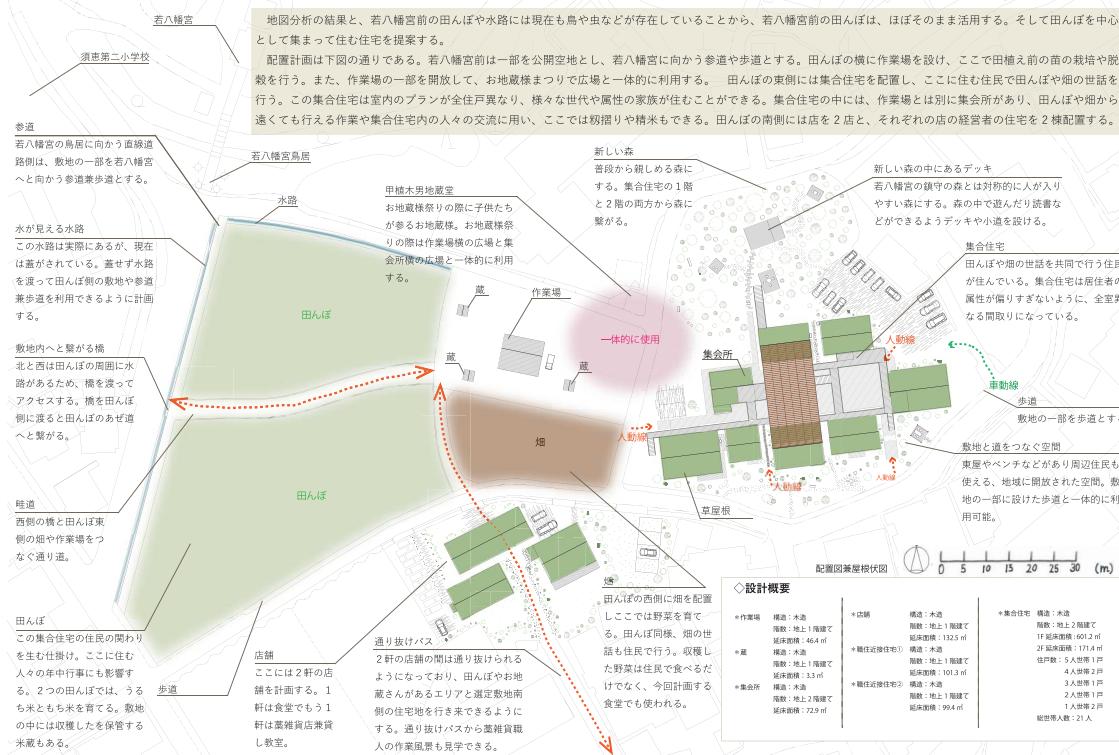
◇エリアごとの季節別使い方



◇集合住宅と賃貸近接住宅の主な年間行事



06. 設計計画



指導教員講評 地域コミュニティが希薄になった現代において、いかに人と人を繋ぐかに腐心した案である。集まって住むには、当然、良好なコミュニティ形成が望まれるが、単に空間を集積しただけでは、良好な繋がりができないことは自明である。関係性を生む空間の形態に加え、繋がる仕組みをつくることが提案の骨格を成しており、ある種、エリアマネージメントの考えを取り入れた提案となっている。

07. 設計計画 (集合住宅)



08. 設計計画 (職住近接住宅及び作業場、蔵)

